

不戦へのネットワーク総会 飯島滋明さん記念講演報告

「30防衛大綱・31中期防を読み解く」

以下は3月16日、不戦へのネットワーク総会時に飯島滋明さん(名古屋学院大学教授)の記念講演の要旨です。

要約: 八木巖

防衛大綱、中期防とは

防衛計画の大綱とは10年間を見据えた安全保障計画の基本方針。防衛計画の大綱に基づき5年間で具体的に整備する装備を示すもの。防衛大綱はトランプ大統領の対日貿易赤字削減圧力のもと、安倍首相の指示で5年目で見直すことになった。

「30 大綱」「31 中期防」の特徴

- ・中国、北朝鮮を名指して、仮想的を作つて防衛力構想を作成している。
 - ・「多次元統合防衛力」＝陸・海・空プラス「ウサデン」(宇宙・サイバー・電磁波)重視。
 - ・安保法制の一層の強化。たとえば米軍防護、シナイ半島MFOへの陸自派遣。オスプレイによる海外邦人救出。「自衛隊は国内の国民は助けないけれど海外の国民は助ける！」、IED(簡易爆弾)対処部隊の発足。安保法制は世界中で武力行使をするため。
 - ・「専守防衛」からの離脱。例、F35B搭載のいすも型「空母」。ウサデンの領域でも専守防衛からの逸脱。空自戦闘機はすべて(約100機)はマルチロールファイター(空中戦も地上攻撃もできる)に改修される。そしてスタンド・オフ・ミサイル(相手から攻撃がとどかない領域から攻撃できる)を搭載する。岩国から朝鮮半島、九州から朝鮮半島や中国の一部が攻撃可能になる。また、地上目標への攻撃も可能になり、搭載ミサイルも増加させる。実際の戦争を意識した「医療体制」をつくる

島嶼防衛用滑空弾の研究。これは敵基地攻撃能力を保有することとなる。2個大隊が沖縄に配備される。もしかしたら、宮古から石垣を攻撃するために使われる可能性もある。

E35と愛知

F35は34機までは三菱重工で組み立て。2019年以降の完成機は輸入となるが、整備・補修などの拠点として稼働する。在日米軍のF35の機体も整備することになる。

沖縄の基地

これまでに島嶼に配備された部隊は専なる偵察部

隊、警戒部隊であったのが、地対艦ミサイル連隊と2個高速滑空弾大隊が配備されることで、実際に打撃力を持つ部隊となる。

アメリカの一部化

イージス・アショアは日米共同の「総合ミサイル防空能力」の一環で、ハワイやグアムを守るためにアメリカ防衛のために日本を利用することになる。アメリカが戦争をはじめた際、ロシア、中国、共和国のミサイル攻撃の対象になるのではないか。

安倍自公政権と軍事費

31中期防では概ね27兆4700億円。安倍自公政権下では7年連続で軍事費が増大

○早期警戒機E-D9機 1機約262億円

○F35A(27機)/F35B(F35B(18機)1機約116億

円 F35Bはもっと高額 寿命10年?

○空中給油機・輸送機KC-46A(4機)

1機約249億円



自衛隊は国民を守らない

「石垣島奪還作戦」をみると、自衛隊が市民を攻撃する可能性が排除されていない。「国民保護のための輸送は自衛隊の主担任ではない」としている。「軍は國家を守るために作戦を優先する。」

飯島さんは、自民党は憲法改正の毒牙を研いでおり、警戒を高めなければならないとされました。

実際の講演はネットで、Youtube で視聴できます。

https://youtu.be/Kc_mu2P6Ny4